石橋　俊教授　退任記念誌

自治医科大学内分泌代謝学部門業績集

北岳山荘テン場から望む富士山　3776m　２回登頂

ご　挨　拶

2023 年春は、22 年間奉職した自治医大退任の節目でした。それを機にエフォートの過半を占めていた教育・研究を大幅に縮小することになりました。一方、開業医という形の人生再出発の節目でもありました。そこで、近しくしていただいた（と私が勝手に思いこんでいる）方々に形式自由の回想録の執筆をお願いしました。幸い大半の方々にご快諾いただきました。多忙にかまけて発刊が大きく遅滞しましたことをお詫び申し上げます。補足資料も収載した DVD も添付しますので、ご活用いただけると幸いです。

構成は以下の通りです。i）人物紹介、ii）アルバム、iii）記念寄稿、iv)発表論文リスト、v)最終講義スライド一覧。i)の人物紹介では生い立ちを表にしてみました。結構頻繁に転居したものです。関係組織での委員会活動や開催をお手伝いした主な集会リストも作成しました。研究歴に関しては Jonathan Cohen 先生による私の発表論文の review がよくまとまっています。ただし、相当の時間を費やしたが論文化できなかった仕事や、投稿したが不採択通知後に放置してしまったような論文も少なからずあり、これらを反映する術がありません。大学広報誌、出身校の同窓会誌ないし地域医師会会誌に掲載した文章を転載しました。回顧録を書きかけましたが、納得のいく形にならず、省略としました。ii)の写真ですが、教室としての写真アーカイブを作成していなかったので、大半は私個人のデジカメやスマホが出典になります。定期的な公的イベントとして、4 月の花見、夏の BBQ、年末の同門会と忘年会、冬のスキー旅行や歓送迎会など掲載したい写真は多数ありましたが、断腸の思いで厳選しました。また無許可掲載の無礼をお許しください。iii)の寄稿いただいた方はご指導いただいた先輩諸氏・同僚・友人・学生など多岐に亘りました。大学組織重視の配置、年齢順、50 音順やアルファベット順かと悩みましたが、これら折衷案になりました。失礼があればご容赦ください。iv)の論文は自治医大在籍時代に限定せず、共著の全論文としました。各論文の引用数も調べたところ、最多は留学中に作成した LDL 受容体ノックアウトマウスの表現型解析とそれを用いた遺伝子治療を報告した論文の 1,961 回でした。人気 YouTuber の億単位の閲覧数に比してなんとささやかなことか！v)講堂での最終講義のスライド一覧を掲載しました。収録ビデオは DVD をご参照ください。内容の中立性を客観視できるような COI の記載も必要なご時世ではありますが、一般の読者を想定していないため省略させていただきました。

大学病院で働く医師は教育・研究・臨床の３つの仕事をこなす必要があると若い時分に聞いたことがあり、その通りだと思いながらこれまで生きてきましたし、若手にもそのように指導してきました。大学病院で働く医師たる者は教育・研究・臨床の３つのクラブを両手で器用に宙に上げる曲芸師(juggler)たれと叱咤激励したこともありました。しかし、患者さんの立場に立って考えれば、命を守るべき立場の人間が全身全霊で臨床に取り組んでいなとすれば倫理的とはいえないでしょう。また、全身全霊で没入するのでなければ研究でも十分な成果を挙げることはできないはずです。昨今、日本の研究の国際競争力の急速な地盤沈下と研修医の過労死事件に端を発した「医師の働き方改革」が言われています。これまで当

然とされてきた教育・研究・臨床同時遂行のスキームが破綻しつつあるのかもしれません。多くの task に貴重な時間を浪費することなく、一点集中できる環境の整備がこれからの医療界や自治医大が達成すべき課題であるように思われます。

月並みな物言いになりますが、人間は自分だけで生きている訳ではなく、無数の人間の恩恵を受けて生きています。仕事関係に限定しても数えきれない方々のサポートをいただきました。逐一御礼申し上げたいところですが、とりあえずこの冊子を手に取っていただいた方に御礼申し上げたいと思います。鬼籍に入られてしまった高久史麿先生、山田信博先生、大橋靖雄先生にも絶大なご支援をいただきました。また、編集作業にご尽力いただいた山本慶子さん、野口清美さん、本嶋恵美さん、武井暁一先生にも厚く御礼申し上げます。

既に私も人生の新たなステップを歩み始めており、自治医大時代は遠い夢のようにも感じます。世界に戦火が絶えず、巨大自然災害の脅威が迫る今日この頃ですが、皆様のご多幸を心からお祈りしております。この小冊子から何らかのヒントを得ていただければ望外の喜びです。

2024 年 8 月終戦記念日に

石橋　俊　近影